

武庫川だより 「武庫川にキツネが！」

森田 至

10月7日、いつもの散歩途中、クリーンセンター近くの可動堰下部に護床ブロックが敷かれているところに、こちらを見ているキツネらしき動物がいました。



はじめは、こんな所にいるわけではない、キツネだと人の顔を見るとすぐ逃げるはずですし・・・。

キツネに似たイヌかな？とも思いました。しかしよく見るとやっぱりキツネです。右前足の足首から下が欠損していて素早く逃げるができなかったようです。キツネ特有の尻尾の毛のふさふさや、前足の前面の黒い部分がなかったので迷いました。毛が抜けていることやかなり痩せ細った様子から、疥癬症（ヒゼンダニ感染）に感染している事が推測できました（タヌキに多い）。

その後、なぜか晴れた日に同じ所で2回目撃しましたが、曇りの日には目撃できませんでした。不思議なのでちょっと考えてみました。たぶん紫外線に当たることでヒゼンダニが死ぬか逃げ出すのではないかと考え、ネットで調べて見ましたが残念ながらまったくそのような情報はなかったのです。疥癬症には、今コロナウイルスの治療薬？として話題になっています大村博士がノーベル賞の受賞となった「イベルメクチン」という薬が疥癬症には非常によく効くと言われています。このような感染症を持った動物（疥癬症は人にも感染する）は野生動物の保護の観点から、どのように考えればよいのでしょうか？

「ゴキヅル」 ウリ科ゴキヅル属 (兵庫県レッドデータ：Cランク)

森本 敏一

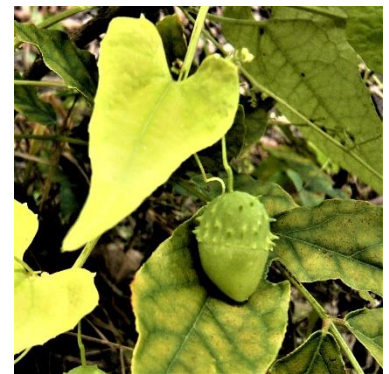
場所：武庫川左岸宝塚市小浜1丁目、武庫川右岸宝塚市東洋町 (2021.10.14)



(写真 A)



(写真 B)



(写真 C)

何年前には美座1丁目(宝塚新大橋)や同2丁目(荒神川)辺りでも見ることができたが全く見なくなっていた。最近、武庫川の右岸東洋町や左岸小浜1丁目の水際で久しぶりに出会ったので報告する。

1年草(つる)、雌雄同株、日当たりの良い水辺や河原に生える。巻きひげで他の物にからまる<写真A>。

花序上部に雄花、基部に雌花がつく<写真B>。

<写真 C>では熟してきた果実、上下中央に境目が見える。その中には種子が縦に2個並んでいる。
(以上 清水孝之著 神戸・六甲山の草花ハンドブックより抜粋)

宝塚のトンボ「コノシメトンボ」

森野光太郎

日本には、トンボ目トンボ科アカネ属に総称される「赤トンボ」の種類はいったい何種類いると思いますか？

実は、世界にアカネ属のトンボは約50種類、日本はそのうちの21種類が記録されています。その中でも今回は、宝塚市内に生息するコノシメトンボという赤トンボの種類を紹介します。



(↑コノシメトンボ成熟オス)

コノシメトンボもナツアカネとほぼ同様の場所や環境を好む体長4cm~5cmくらいのトンボです。しかし、オス・メスとも写真のように翅の両端に褐色斑(ノシメ斑)を持つのがおおきな特徴です。

また、コノシメトンボはオス・メスともいわゆる「赤とんぼの群れ」をコノシメトンボだけで形成することはありません。羽化後はナツアカネと同じように近くの山林での摂食活動を行います。



(↑コノシメトンボ成熟メス)

成熟後は田んぼや平地などに移動するのでナツアカネよりも広い範囲に分散していきます。なんでそうなるのかはコノシメトンボさんに聞かなければわかりませんが、成熟後のコノシメトンボは、田んぼの近くに単独にいるか、ナツアカネなど他のトンボの群れに数匹程度混じって、赤トンボの群れを作っています。

コノシメトンボの他にも「ノシメ斑」を持つトンボもいるので、皆さんの家の周りにはどんな赤トンボがいるのか、散歩しながら探してみてください。

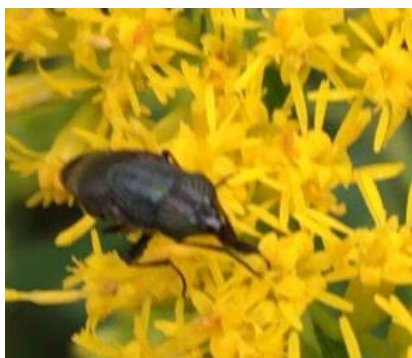
私にとって、散歩は絶好の虫観察の機会です

垣田 衛



コロナ自粛と介護で体力が本当に落ちており、1日の中で自分に充てられる時間には、体力を維持する目的で天神川の川土手を歩いています。

キョロキョロと虫を追っての散歩ですから、体力をつけるというには、ほど遠いかもしれません。ニュースレター2号・4号にあった森田さんの報告「ジャコウアゲハの蛹」が、今バラ公園横で結構見られます。羽化は来春だと思いますが、土手を歩くたびにカラス等の鳥に見つからないことを祈っています(左:ジャコウアゲハの蛹)。キタテハやツマグロヒョウモン・ホシホウジャク等が盛んに飛び回り、ヨモギハムシも結構目につきます。



眼を拡大すると

セイタカアワダチソウには口を伸ばして盛んに蜜を吸う「ツマグロキンバエ」も。このツマグロキンバエの複眼は青緑色に輝き、筋模様があるのが特徴です。これで物がどんな具合に見えるのかと思いますね。

(左写真:ツマグロキンバエ)